

【学校だより】

南アルプス市立小中一貫校 芦安小中学校

芦安っ子

【学校教育目標】

郷土を愛する心と夢を育み
未来を拓く人づくり

令和2年1月21日 NO.9 芦安小学校長

新しい年のはじまりに！

昨年4月から芦安小中学校は、「小中一貫校芦安小中学校」として新たにスタートしました。保護者の皆様・地域の皆様をはじめ、関係各位の皆様のご理解とご協力により、運動会や文化祭などの各種行事や日々の授業を大切にしながら子供たち一人一人に寄り添った指導を心がけることにより、25名の子供たちは心身ともに成長できたように思います。心から感謝申し上げますと共に、令和2年も昨年同様によりしくお願いいたします。

次の写真は1月14日に芦安（小曾利）地区で行われました小正月伝統の行事「どんど焼き」の様子です。やぐらに付けられた炎は、今年の運勢を占うかのように高く勢いよく燃え上がりました。



今年は放課後児童クラブ（学童）でお団子づくりをしてくださったこともあり、参加者が多く、盛大などんど焼きになりました。

どんど焼きで焼いた団子を食べると「病気にならない・虫菌にならない」といわれています。また、「燃やした書き初めの紙が高く舞い上がると習字が上手になり勉強もできるようになる」などともいわれています。

勢いよく高く燃え上がるどんど焼きの炎を見つめながら、「芦安小中学校の児童生徒一人一人が、健康ですくすく成長すると共に今年も地域の皆様、保護者の皆様と連携した学校教育が充実できますように」と改めて思いました。地域や学校の特徴を最大限に発揮して、子供たちの笑顔が絶えない魅力ある学校づくりを目指したいと思っています。

児童生徒も含め芦安小中学校全員が「ワンチーム」となって小中一貫教育を推進します。広く保護者・地域の皆様のご理解とご支援・ご協力をお願い申し上げます。新年のあいさつとさせていただきます。



どんど焼き （1月14日）

令和元年度は、余すところ3学期（登校日：52日）のみとなりました。3学期は、今年度のまとめと令和2年度にむけた準備の期間でもあり、大切な行事がたくさんあります。

いろんな機会に学校の様子や児童の様子を見ていただき、ご意見をお寄せください。職員一同、子供たちのために精一杯がんばります。

12月31日(大晦日)の山日新聞の1面「風林火山」の欄に次のような記事がありました。

思うような結果が出なかったとき、限界を感じたとき、どうするか。(中略)

昨日まで受けたネタが受けない「重い客」に当たったとき、売れ続ける芸人は「自分のネタが悪かったから」と次の出番のためにネタを替えたり、新しく仕込んだりする。売れない芸人は、「今日は客が悪い」「俺の笑いを分ってへん」と人のせいにする。明石家さんまさんら売れ続ける芸人は、自分ごととして、変化し続けることから逃げないのだという。

箱根駅伝で学生たちを率いて戦い続けた山梨学院大陸上競技部の上田誠仁監督も言う。伸びる選手とそうでない選手は、練習などの姿勢でどこが違うかを語る。

自分の中で描いた円のラインいっぱいまで行ったとき、きついからとそこで終わるか、そのラインを消したいからと苦しくても半歩踏み出す勇気があるかが違う。環境が悪いのか、指導が悪いのか、練習が悪いのか…。伸びない選手は他者に理由を求め、伸びる選手は自分に打ち込んで頑張ると言う。

あらゆる分野に通じる話だろう。楽になりたいから自分に言い訳をして過ごしてこなかっただろうか。

小中学校では、運動会や文化祭などの行事が終わったときにいただきましたアンケートの結果や学校評価等でお寄せいただきました貴重な御意見等は、真摯に受け止め、自分ごととして反省して、改めるべきところは改善するなどして、来年度の参考にします。

各取組のねらいを明確にし、子供たちの心身の成長にとって有意義な取組となりますように努力してまいります。今後もよろしく願いいたします。

